

SPD 保護用ヒューズ 取扱説明書

このたびは、SPD 保護用ヒューズ（以下 SFD と表記）をご採用いただき誠にありがとうございました。ご使用前には、必ずこの取扱説明書をお読みくださいますよう、お願い申し上げます。

本製品は、電源線から侵入する誘導雷から低圧電源機器を保護する電源用 SPD（以下 SPD と表記）が劣化又は故障した場合、SPD の発火による火災や、上位遮断器の遮断動作による停電のリスクを防ぐことができます。

1 安全上の注意事項

ここに記載した注意事項は、安全にご使用いただくための重要な内容です。

注意事項のレベルを[警告]と[注意]に区分しています。

<p>警告 人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容です。</p> <p>注意 人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容です。</p>
--



警告（一般事項）

- SFD 以外での用途で使用しないでください。
- 水や溶剤で拭いたり、かけたりしないでください。
- 濡れた手で作業をしないでください。
※火災、感電の恐れがあります。
- 定格を超えた電圧で使用しないでください。
※火災、感電の恐れがあります。
- 製造業者指定の SFD ホルダをご使用ください。
- 施工時には、必ず電源を OFF にしてください。
※火災、感電の恐れがあります。
- 近くに落雷が発生している場合は、SFD に触れないでください。
※感電の恐れがあります。



注意事項

- 取扱説明書の内容をご確認の上、施工してください。
※施工不備による、故障、事故の原因になります。
- 周囲温度が $-40\sim+70^{\circ}\text{C}$ を超えるような設置場所では使用しないでください。また、屋外の盤内に SFD を設置する場合には、直射日光により盤内の温度が使用温度範囲を超えないようにしてください。
※SFD の劣化が進み、故障、事故の原因になります。
- SFD を改造、分解しないでください。
※故障の原因となります。
- SFD が損傷するような、外力（落下、衝撃、振動）を加えないでください。
※故障の原因となります。

2 特長

- (1) インパルス電流耐量【公称放電電流：20kA】
- (2) φ15mm×50mm 用のヒューズホルダ※1 が使用できます。
- (3) SPD の劣化による火災を防ぎます。
- (4) 遮断器の動作による停電リスクを防ぎます。
- (5) RoHS2 規制 10 物質に対応しています。

※1 JIS C 8314 配線用筒形ヒューズ に規定されているサイズです。

3 外観・形状

図 1 に外観・形状を示します。JIS C 8314 『配線用筒形ヒューズ』に適合した形状になっています。



図 1

4 仕様

本製品の仕様を表 1 に示します。

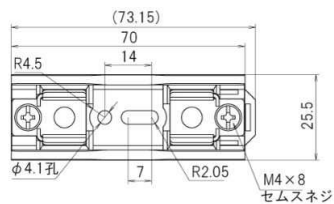
表 1

形 式	定格電圧	定格電流	周波数	サージ電流耐量 8/20 μs	定格遮断容量 (250V/500V)
DU20kA	AC250V/AC500V	30A	47Hz～63Hz	20kA 20 回	20kA/5kA

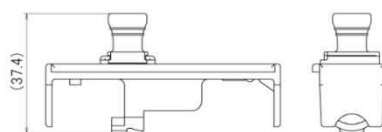
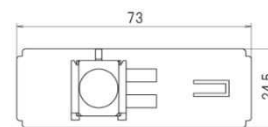
5 施工について

5.1 施工前に、部材（電線、圧着端子、SFD ホルダ等）が全て揃っていることを確認してください。推奨 SFD ホルダを以下に示します。

サトーパーツ株式会社製ヒューズホルダ



ヒューズホルダ F-730



ヒューズキャリア F-730-FC1

5.2 適応電線

配線には、5.5 mm²～14 mm² 絶縁電線を使用してください。

5.3 電線の接続

- (1) 電線サイズに適した圧着端子を使用して SFD ホルダに接続してください。圧着端子には絶縁被覆付圧着端子または絶縁チューブを使用し絶縁処理をしてください。
- (2) SFD ホルダ端子部の締付けトルクは、1.2N・m にて締付けてください。

5.4 SFD 接続例

- (1) SFD は SPD を接続する一次側に設置してください。(図 2 参照)
- (2) 遮断器の定格が 50A 以上の場合は、図 2(a)に示すように遮断器の二次側に SFD を設置してください。
- (3) 遮断器の定格が 50A 未満の場合は、図 2(b)に示すように遮断器の一次側に SFD を設置してください。

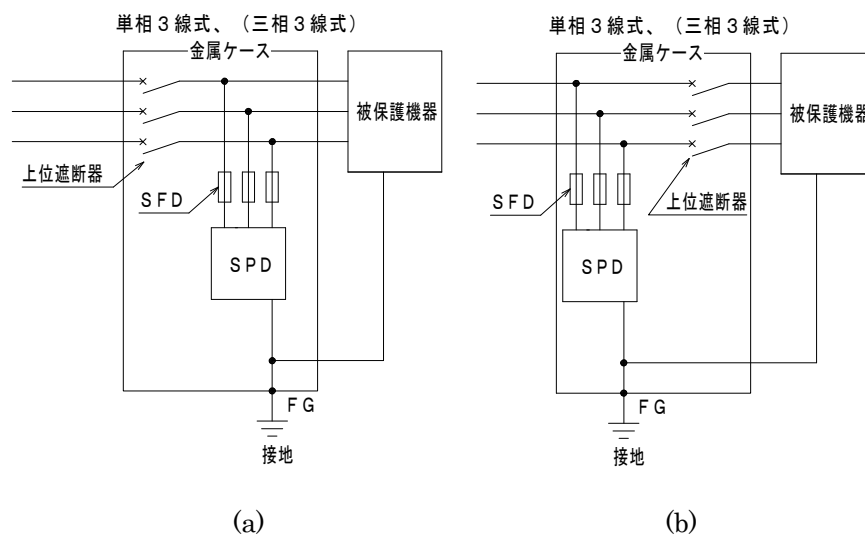


図 2

6 保守・点検

(1) テスターを用いた測定方法

本製品を SFD ホルダから取り外し、両端子間を測定してください。導通がなければ交換してください。

(2) SFD 保持部、接続状態の確認

SFD 保持部の緩みがないか確認してください。緩みがあれば、SFD ホルダを交換してください。SFD ホルダ端子部に緩みがないか確認してください。規定トルクによる増し締めを行ってください。

DAIHEN 株式会社 **ダイヘン**

〒532-8512

大阪市淀川区田川2丁目1番11号

TEL 06-7177-6760

FAX 06-6308-0962

2022年03月 作成 TS338A